



歴史は繰り返さないが韻を踏む ～泥まみれ、汗まみれ～

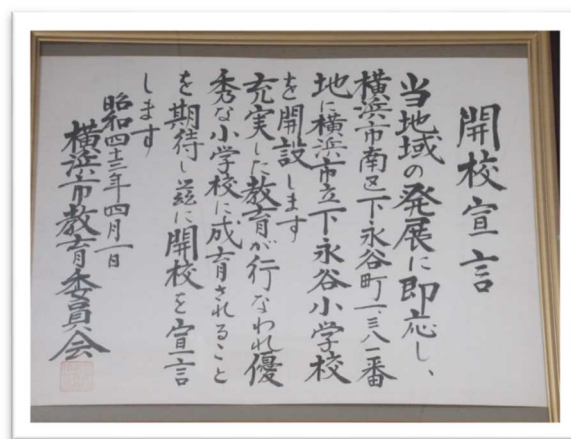
学校長 関谷 道代

朝、学校に近づくと鳥のさえずりが迎え、緑豊かな木々が風にそよぎ、すてきな一日の始まりを告げてくれます。この木々は、多くのPTAの方々によって植えられた、とお聞きしました。

本校は、昭和43年4月1日に開校し56年を迎えます。

全校児童 1023 人でスタートした昭和43年度は、入学式も卒業式も屋上で行われました。そして、5年後には、1688 人の児童数というマンモス校に。

記念誌を読み解くと、PTA が「一本一草運動」を提唱し、会員地域の方々の協力によって、いっしょに汗を流しながら植樹したとの記録もありました。



「多くの人々の祝福を受け、『内容の充実した優秀な学校』となることを期待されて港南の高台に誕生した。(中略) 学校が出来上がって間もない頃、暴風雨の時は、プールの横の土手が水に押し流され、崖下の道路になだれ落ち、先生方や PTA・地元の人がそれこそドブネズミみたいになって崩れた土砂を整理してくれたこともあった。プールといえば、先生方のペンキ塗り、土手の植木は、PTA の方々の労作、垣根の手入れは用務員の方々、地ならしは子どもたちの作業、花壇や鳥小屋は先生と子どもたちの合作。どれもこれも『泥まみれ、汗まみれ』の思い出が尽きない。(中略) 下永谷小学校は、素晴らしい将来がある。無限の可能性を秘めた良い子どもたち、有能でやる気十分の教職員、理解と協力を惜しまぬPTAや地域の人がいるからだ。」

初代校長 佐藤 清 (昭和48年6月18日 創立五周年記念誌「五年のあゆみ」より)

このお考えは 56 年の時を経てもなお、しっかり受け継がれていると合点がいきました。

先日、校外委員が中心となって、自治会長、木の実サポーター、PTA 役員の方々と通学路と一緒に歩き、危険箇所の改善要望のための確認をしました。多くの学校では、校外委員さんが確認し、地域子どもの安全対策協議会などで説明報告しながら要望を出す流れが多い中で、本校は、一緒に汗をかきながら歩くという過程を共有することを大切にしていると感じました。子どもの安全を守るために、一緒に考えようとする姿勢が受け継がれています。初代校長先生の記されている「泥まみれ、汗まみれ」の精神が確かにありました。子どもの安全は、このような地道な努力に支えられているのだということも知りました。校外委員さんをはじめとして、ご一緒に歩いて確認して下さった方々、本当にありがとうございました。

「歴史は繰り返さないが韻を踏む」……『トム・ソーヤの冒険』で知られるマーク・トウェインの言葉です。歴史は、まったく同じ繰り返しはしないが、似たようなことはよく起こりうるという警句として理解されていますが、見方を変えると、本校の考え方の根底にある「人の温かさ」「一緒に汗をかく気質」は時代とともに少しずつ形を変えつつも受け継がれ歴史を刻んでいるような気がします。

6月18日は開校記念式。これからも、下永谷小学校は素晴らしい将来に向かって、「泥まみれ、汗まみれ」で歩み続けます。今月もどうぞよろしくお願いいたします。